

学習ポイント 1

指定を読み取り、内容と形式の両方を満たす

条件作文では、題意に答えながら、字数・段落・指定語・文体などを同時に満たします。条件を箇条書きにしてから構成を考え、書いた後は本文のどこで満たしたかを確認しましょう。形式が合っている、根拠や意味のつながりがなければ十分とはいえません。

目標 目的・内容・形式に分けて、複数の条件を正確に読み取れる。／指定語の位置や働きも考え、条件に合う構成で書ける。／本文の根拠を示して条件を点検し、修正後の再確認ができる。

1 題意・内容・形式を分けて読む

題意は、何について、誰に、何を伝えるかです。内容の条件は、経験・理由・具体例・反対の立場など、何を含めるかです。形式の条件は、使用マス数・段落数・指定語・文体などです。一文に複数の条件がある場合は分けて取り出します。

例 題意：新入生へ、学校生活の準備について助言する。

例 内容：自分の経験と、その経験から得た考えを含める。

例 形式：二段落、百八十～二百マス、常体で書く。

2 指定語は文字・回数・位置を確認

「『一方』をそのまま一回」とあれば、同じ意味の「他方」では満たしません。さらに段落が指定されている場合は、入れる位置も確認します。この冊子では「そのまま」は文字の並びを変えずに使う意味で、かぎかっこ自体は不要です。

例 条件：第二段落に「一方」を一回使う。→第一段落だけにある場合は不適合。

例 同じ語が例文や引用にもある場合は、本文全体で何回使ったかを確認する。

学習ポイント 2

指定を読み取り、内容と形式の両方を満たす

3 指定語の働きまで満たす

指定語を置くだけでなく、その語に合う意味のつながりを作ります。「なぜなら」は前の主張の理由を説明し、「一方」は異なる面を対比し、「ただし」は制限や注意点を加えます。

例 私は事前の役割確認が必要だ考える。なぜなら、作業の重複を防ぎやすいからだ。

例 共同編集は変更を共有しやすい。一方、同時に修正すると内容が重なる場合がある。

4 段落の役割を先に決める

「二段落」と「二文」は別の条件です。各段落に入れる内容を指定された場合は、構成メモにもその役割を書きます。段落冒頭は一マス空け、途中の段落末の空白も使用マス数に含めます。

例 第一段落：経験と、そこから得た考え。

例 第二段落：別の場面で使う際の注意点と、今後の行動。

学習ポイント 3

指定を読み取り、内容と形式の両方を満たす

5 立場と文体をそろえる

指定が常体なら「だ・である・た」など、敬体なら「です・ます・ました」などでそろえます。書き手の立場を指定された場合は、誰が経験し、誰が判断するのもかも一貫させます。指定がない限り、どちらの文体でも成り立ちます。

例 混在：私は班の進行役を担当しました。全員に案を求めた。

例 常体に統一：私は班の進行役を担当した。全員に案を求めた。

6 本文を根拠に確認する

条件ごとに、満たした箇所を本文で示します。語句に丸を付け、段落・文・使用マス数を数え、内容の条件には根拠となる表現を示します。一部を直すと別の条件が崩れる場合があるため、修正後は全項目を再確認します。

例 確認：第二段落の冒頭に「ただし」が一回あり、実施上の制限を述べている。

例 再確認：具体例を移動した後、段落の役割と使用マス数を両方確かめる。

原稿欄の使い方

字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

数え方の例 2段落で30マス

	朝	の	校	庭	を	歩	い	た	。											20
	空	気	が	澄	ん	で	い	た	。	30										

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100％）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。